

学校番号	24	学校名	伊豆の国特別支援学校伊豆下田分校	校長名	松本 仁美
------	----	-----	------------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	○成果と●課題
安全・安心	<b>安全で安心した生活ができる環境づくりの推進</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時にマニュアルに沿って実際の場面で生かすことができた。</li> <li>・緊急時対応の研修会や訓練を実施し、重大事故0件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各マニュアルによる危機管理・安全体制の研修と訓練を行い、実際の場面で行動できた。</li> <li>・实际的、体験的に防災、健康、安全教育の研修、訓練が実施できた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事故、ケガ、嘔吐、発作時など健康面だけでなく防災、防犯と各マニュアルに沿って研修や訓練ができた。実際の場面で行動することができ、重大事故0であった。</li> <li>●研修や実際の場面を通して気づく点があるのでその都度、マニュアルを見直す機会、場を設ける。</li> </ul>
安全・安心	児童生徒の人権が尊重された教育活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権に配慮した適切な関わりや支援が学校生活や授業で実施できた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月ごとの人権目標、やチェックシートで、学部集会で児童生徒へ振り返りをしたり教員が自己チェックをしたりすることで、児童生徒への指導、支援ができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○月目標の設定は児童生徒への支援、言葉かけの際に意識することができた。チェックシートは教員自身の言動の振り返りができた。集会活動で賞賛やそれぞれの学部の活動を確認する機会となった。</li> <li>●一部の教員に呼称や児童生徒への言葉のかけ方が気になるという意見があがった。学級、学部、全体と気を付けることを伝えた。</li> </ul>
専門性	児童生徒が思考しながら取り組む国語・算数の授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が何を学び、どのような力を付けたのかわかるようにできた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラーニングマップを活用して適切な指導目標と指導内容が設定でき、授業実践や一人一授業に取り組めた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童生徒の発達段階に応じた目標と学習内容を設定することができるようになってきた。同じ段階の児童生徒を担当する教員で話し合いをすることにより、授業づくりへ活かすことができた。</li> </ul>
専門性	<b>児童生徒が良さを発揮できる学習活動の推進</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間指導計画の見直し、改善から授業の根拠を確認できた</li> <li>・教員間で話し合っって作成し、目標や評価について保護者と共有できた</li> <li>・ICT機器やアプリ等を活用した授業ができた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間指導計画の評価・改善をすることで、授業、単元のつながりを確認できた。</li> <li>・目標設定シートを使い、児童生徒理解に基づいた個別の指導計画が作成できた。</li> <li>・ICT機器、アプリ等の使用が授業で増えた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各教科の年間指導計画で年間の学習のつながりや他教科とのつながりを意識した年間指導計画の見直しができるようになった。</li> <li>○個別の指導計画を作成するにあたり、「目標設定シート」をもとに児童生徒の実態把握ができ、話し合いにより目標や支援を学級で共有することができた。</li> </ul>

様式第3号

					●iPad にインストールしたアプリを使う機会は増えた。アプリを使用しての学習はまだ少ない。今後、児童生徒が機器を使用しての学習についての実践が必要である。
連携	賀茂地区関係機関や地域とのつながり及び地域の力を高めるセンター的機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・依頼に応じた支援ができた</li> <li>・関係機関と連携したサポートができた</li> <li>・HP や学校公開等、計画的に実施できた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園、小中高と依頼に応じた教育相談、支援ができた。校内のケースでは、関係機関と連携したサポートができた。</li> <li>・ホームページは定期的に更新できた。学校公開は実施しなかったが、随時、見学に応じて対応できた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○園、小中学校、高等学校等からの教育相談に、ケースに応じた支援ができた。複数の教員で対応し、体制も整えることができた。市町の巡回相談へ同行し賀茂地区の情報を把握することができた。</li> <li>○校内だけでなく関係機関と連携、協力して児童生徒の支援にあたることができた。</li> </ul>
連携	地域の学校や地域とつながる活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流校との連携を図り、互いに学びのある交流が計画的に実施できた</li> <li>・地域資源を活用した授業が実践できた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下田小学校、児童生徒の居住地にある学校、高等学校と計画的に交流が実施できた。</li> <li>・昨年度から年間指導計画に計画しておくことで、校外へでて地域での学習が実施できた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学部では、地域の施設（下田ロープウェイ、サスケハナ号、アニマルキングダム、道の駅等）へ出かけ、中学部では臨済寺へ作業製品、下田高校南伊豆分校と園芸交流、下田中学校特別支援学級とのポッチャ交流と実施できた。</li> <li>○事前に交流内容について打合せをすることや回を重ねることで、交流活動がよくなっている。</li> </ul>
チーム学校	「チーム下田」による信頼される学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務改善や互いに協力しあって仕事できた</li> <li>・学んだことを指導や支援に活かすことができた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員同士が連携・協力して業務にあたることができた。</li> <li>・身体面、認知面、授業づくりなど様々な研修で学んだことを指導、支援に生かすことができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○具体的な業務改善はできなかった。分掌や授業を担当するなどメインで行うことが重なるときは多忙になるが、職員同士で協力して仕事が行えた。</li> <li>○身体のこと、認知発達のこと、授業づくりなど講話や研修を通して学んだことを指導に活かすことができた。具体的な事例を通して学ぶことで実際の指導の場面で活かすことができた。</li> </ul>